



緊急対応ユニット（ERU）について

1. 緊急対応ユニット（Emergency Response Unit：ERU）とは

1980年代後半から1990年代にかけて、アルメニア地震、湾岸戦争中の大量のクルド難民発生、大湖沼難民危機などの複合危機の中で人道支援団体は新たな対応を迫られることとなりました。

このような緊急事態、大規模災害への即応体制構築の必要性の中から緊急対応ユニット構想は生まれました。ERUの基本的な考え方は、以下の2点に集約されています。

- 1) 緊急事態、大規模災害発生に備え、各国赤十字社が緊急出動可能な、訓練された専門家チームおよび資機材を整備しておく。
- 2) 緊急事態、大規模災害発生後、国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）の調整の下、各国赤十字・赤新月社はERUを展開し、当面1ヶ月間、他からの支援を得ることなく自己完結型のチームとして活動を行うことができる。その後は連盟の事業に統合されることになるが、最長4ヶ月間は各国赤十字・赤新月社が人員、経費の両面からERUを維持する。



© 日本赤十字社

【緊急対応ユニットの種類】

次のようなERUが各国赤十字・赤新月社にて整備されています。

1) 病院ユニット（大規模手術、入院を含む総合医療）



© International Federation

2) 基礎保健ユニット（基礎保健および軽度の手術を含む基礎医療）



© International Federation

3) 給水・衛生ユニット（生活用水、下水処理、トイレ等の設置）



© International Federation

4) 通信機器ユニット



© International Federation

5) ロジスティックユニット（救援物資調達、輸送、航空貨物等取り扱い）



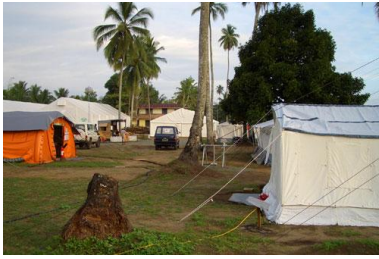
© International Federation

6) 救援ユニット（受益者登録、救援物資配布等）



© International Federation

この他、ERU とは別にベース・キャンプ・ユニット（宿泊地、事務所、キッチン、トイレ等設置）があります。



© International Federation

活動現場では、各国からこれらの ERU が集まり、総合的な救援活動が行われます。

ERU は現在 16 カ国の赤十字・赤新月社で 6 種類 41 基が整備されており、1996 年から 2008 年までに、災害等の対応のため延べ 161 基の ERU が展開されました。

2. 日本赤十字社の基礎保健 ERU

日赤は、これまでの数々の国内救護、国際救援の経験に基づき、より効果的な救援体制の整備を進めており、2001 年に日赤の基礎保健 ERU を連盟に登録しました。ERU として正式に連盟に登録したことによって、従来の日赤単独型の医療班の救援活動から、人材、資機材の両面において国際赤十字の災害対応システムの中で大々的に活動することができるようになりました。

また、日赤はアジア・大洋州地域における唯一の ERU 保持社であり、同地域における災害対応のリーダー的役割を担うことを目指していることから、ERU 派遣に興味を持つ同地域の赤十字・赤新月社からのスタッフを受け入れ、共同派遣を行っています。日赤が共同派遣を受け入れる可能性のある社からは、毎年日本で開催している基礎保健 ERU 研修への派遣候補者の参加を呼びかけています。

【基礎保健 ERU の目的】

日赤が整備する基礎保健 ERU は WHO の基本プロトコールに従い、外来患者に対する小手術を含む基礎的な治療、母子保健、地域保健、予防接種、栄養状況観察等のサービスを提供します。

【派遣スタッフ】

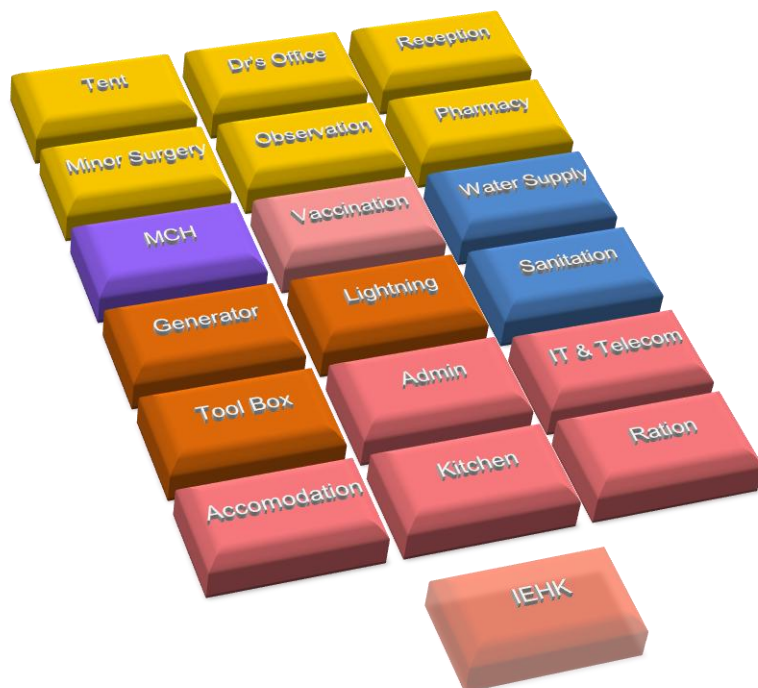
ERU 構成メンバーの基本形は、チームリーダー 1 人、ヘッドナース 1 人、医師 2 人、看護職（必要に応じて薬剤師 1 人を含む）3 人、管理スタッフ（技術スタッフを含み、リーダーを 1 人おく）4 人の計 11 人で編成されます。全てのスタッフは、あらかじめ ERU スタッフとして研修を修了し、登録された者から選出されています。



© International Federation

【日赤基礎保健 ERU 資機材】

日赤の基礎保健 ERU は、活動時により現地のニーズに柔軟に適応することを目的として、国際赤十字の基準に基づいて機能ごとに 18 のモジュールに区分された 146 箱、約 11 トンの資機材で構成されています。

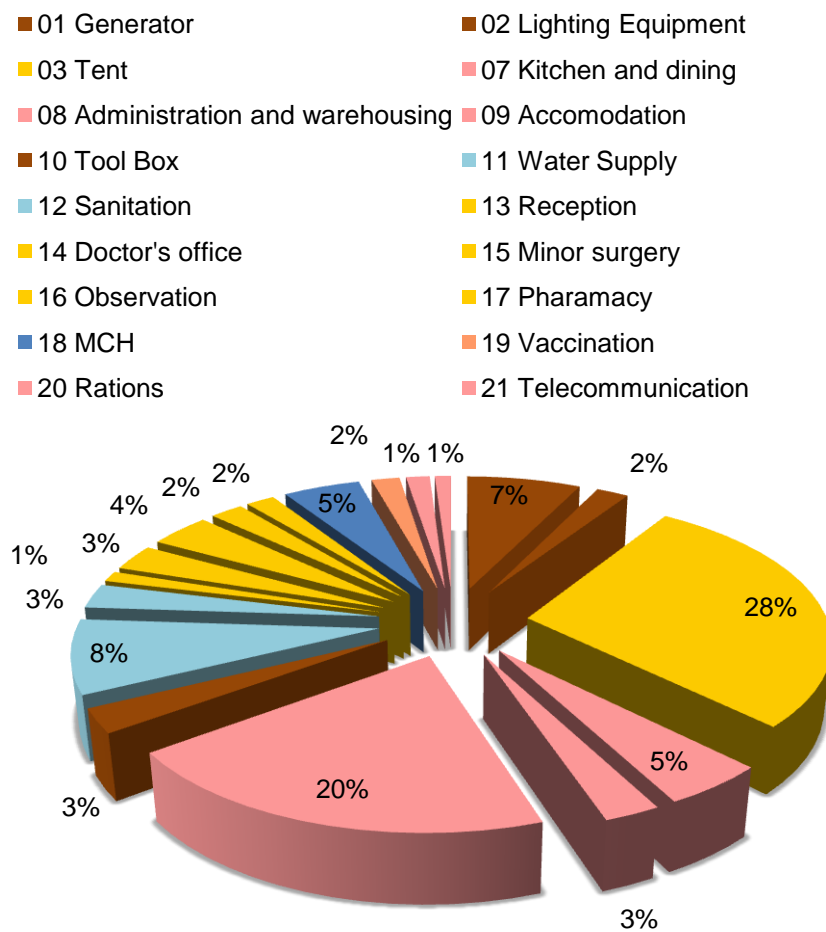


【日赤基礎保健 ERU 資機材のモジュール構成】

- | | |
|------------------------------|----------------------------------|
| 1) Generator (発電機) モジュール | 11) Doctor's Office (診療室) モジュール |
| 2) Lightning (照明) モジュール | 12) Minor Surgery (小外科) モジュール |
| 3) Tent (テント) モジュール | 13) Observation (観察室) モジュール |
| 4) Kitchen (キッチン) モジュール | 14) Pharmacy (薬局) モジュール |
| 5) Administration (事務) モジュール | 15) MCH (母子保健) モジュール |
| 6) Accommodation (住居) モジュール | 16) Vaccination (予防接種) モジュール |
| 7) Tool Box (工具) モジュール | 17) Ration (食料) モジュール |
| 8) Water Supply (給水) モジュール | 18) Telecommunication (通信) モジュール |
| 9) Sanitation (衛生) モジュール | |
| 10) Reception (受付) モジュール | |

ERU の出動時には、これらのモジュールに加えて WHO の基本的な医薬品 (IEHK: Interagency Emergency Health Kit) を使用して活動を展開します。

(参考) 日赤基礎保健 ERU のモジュール構成



【日赤基礎保健 ERU の活動実績】

日赤は 2001 年に基礎保健 ERU を登録して以降、下記の災害等に対し ERU を派遣しており、各活動の反省を踏まえて、よりよい活動を実施するために ERU 整備体制の充実を図っています。

- 2001 年 インド地震
- 2003 年 イラン南東部地震
- 2004 年 スマトラ島沖地震・津波災害
- 2005 年 パキスタン地震
- 2006 年 ケニア洪水災害（オーストラリア赤十字社と共同）
- 2008 年 ジンバブエ・コレラ対応（オーストラリア赤十字社・香港紅十字会と共同）
- 2010 年 ハイチ大地震（オーストラリア赤十字社・香港紅十字会と共同）
- 2010 年 チリ大地震（カナダ赤十字社と共同）